

2011年4月22日

高分子有機ELの早期事業化に向けた組織改正について

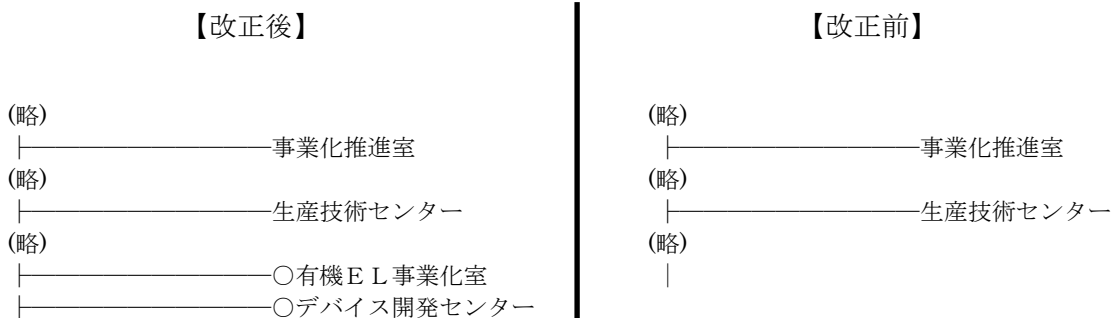
住友化学株式会社（以下「住友化学」）は、5月1日付で、ディスプレイ用高分子有機ELの早期事業化を図るため、「有機EL事業化室」を新設することといたしました。

有機ELデバイスは、高精細で視認性が高く、自発光であるため高速応答性に優れ、また、消費電力が低く環境面に配慮した表示デバイスです。特に高分子有機ELは、発光層の形成方法として溶液系での印刷法が適用できるため、低コスト高生産性で大型パネルが製造でき、次世代ディスプレイとしての大型テレビ、あるいは照明などを中心に今後市場が急成長するものと期待されています。

住友化学では、これまで、開発の初期ステージとして、新規事業化を全般的に扱う「事業化推進室」において有機ELの事業化検討を行ってまいりましたが、市場の急成長に合わせた開発の加速を図るため、ディスプレイ用途に関する有機ELの事業戦略立案ならびにマーケティング機能を独立させ、本専従組織を新設することにいたしました。また、あわせて、デバイス開発機能についても、現在愛媛地区で実機スケールでプロセス開発を行っている「生産技術センター（デバイス開発グループ）」を「デバイス開発センター」として独立させ、有機ELデバイスの開発機能の一層の強化を図っていく所存です。また、照明用途に関しては、デバイス開発センターの知見、ノウハウを活用しながら引き続き事業化推進室にて所管し事業化を目指してまいります。

住友化学は、今後、液晶ディスプレイ用部材の事業で培ってきた組立型の加工技術や知見、人材などを総動員し、高分子有機ELの早期事業化を目指してまいります。

（○印 改正）



以 上